

30301電気通信工事における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2017	12	17~18	作業終了後、会社倉庫の整理のため、車から材料の入った段ボール箱（約300×400×200、約5kg）を持って歩いていた際、倉庫出入り口付近で誤って躓き転倒し、その際に右足首を捻った。	51	2	921	1～9
2	2017	12	14~15	当日の業務で、CCTVカメラ取付作業を終了し、帰社のため下り線を運転走行中、運転操作を誤り反対車線に飛び出した。上り線のガードレールにぶつかり180度回転したところ、上り線を走行していた車運搬用トラック（キャリアカー）に後ろから衝突され負傷した。	19	17	231	50～99
3	2017	12	17~18	被災労働者は、倉庫で棚に置いた道具や工具類の整理整頓と掃除の最中、棚上段（高さ2m弱）から道具（重量物）を下ろす際に脚立（高さ1m程）を使い、右足を脚立のステップに乗せ左足を棚に掛けた体勢で行った。道具を引き抜いた拍子に脚立が地面にあった大き目の砂利小石にぐらつき、仰け反りそうになり飛び降りた。飛び降りた足元にドラムジャッキ（鉄製）があり、左足ふくらはぎが先端に接触し、痛みを覚え通院した。	25	3	419	30～49
4	2017	12	18~19	事業所倉庫内に於いて、翌日の現場（太陽光発電工事）の準備作業中、現場用の工具を揃えている時、棚から圧着工具が右足に落ち負傷したものである。	35	4	364	10～29
				自社倉庫で、中二階にある作業ロープを片付け中、誤って養生				1～

5	2017	12	14~15	部分を踏み抜いて転落し（1.5m位）、一階床に置いてある電線ドラムの上に腰を打ち、腰を負傷した（ヘルメットあり）。	59	1	418	9
6	2017	12	14~15	お客様宅にて、建物の外壁にはしごをかけて、ケーブルテレビの保安器の交換作業をしているときに、はしごの脚（接地面）が滑り、はしごの1mの高さから、はしごと一緒に落下して、右腕の肘を脱臼骨折した。	45	1	371	1~9
7	2017	11	15~16	資材の搬出作業で現場階段を2Fから1Fへ降りる際に、最後の1段を誤って、バランスを崩し、よろけてそこに組まれていた足場鋼管に左脇をぶつけた。	57	3	413	30~49
8	2017	11	13~14	送電線鉄塔基礎用深礎基礎鉄筋組立作業において、主筋吊込作業中、作業員Aは介錯を行うため、墜落防止器（ヘルパック）を使用し、中間に入り胴網を鉄筋固定金具へ取り付けた。吊荷の介錯をする際、胴網に荷重がかかり鉄筋固定金具が主筋から外れ0.5mほど墜落し宙ぶり状態となった。その際に鉄筋、ライナープレートで右手を強打し、右手を痛めた。	52	1	419	10~29
9	2017	11	9~10	工場構内にて、ケーブル導通試験を実施し、配線チェッカーを配電盤内サーマルリレーに取り付けなければならないところを、誤ってブレーカー一次側に接触させ短絡アークにより両目を火傷した。	32	12	352	10~29
10	2017	11	17~18	倉庫内のセキュリティ工事において、150cmの脚立の120cmの踏棧で配線作業が終わり、1段下りる際、脚立のバランスが崩れ、脚立が転倒、本人は転落し、座骨骨折と診断された。床面にでこぼこがあり、足元が不安定になる可能性がある中、はさみ板かマット等での足元安定の措置を図らず、ヘルメット未装着であった。	24	1	371	10~29
11	2017	11	16~17	太陽光発電工事現場で排出されたアスファルト殻を廃棄処理業社に向かって運搬中、道路横断側溝の道路と側溝の段差で車が上下に弾み、コントロールを失い、路肩から1m下の側溝に滑り	63	17	221	1~9

				落ち、農道とT字路との角に突き当たり負傷した。				
12	2017	11	15～ 16	倉庫内作業場で、電線を持って歩いて転倒して、骨折した。	54	2	417	1～ 9
13	2017	11	12～ 13	出社の為、駐車場に自家用車を止め歩行中、後方から接近する車の音で自分に近付いてくるように感じ、咄嗟に左側に避けた際、側溝に左足を落とした。	43	1	417	50 ～ 99
14	2017	11	14～ 15	製作所における工場内のセキュリティシステムの機器増設工事に際し、鉄柱に配線するため脚立（全長1.8m）に登り、天板を跨ぎ作業していたところ、体の重心を移動した時に脚立の脚部がずれた（床が油で滑り易かった模様）ことから、体のバランスが崩れ約1.7m下の床面に落下した。床面には段差や消火器があり、消火器に当たったことなどで、足の一部に大きな衝撃が加わり、左足くるぶしの骨折を負ったものである。	42	1	371	10 ～ 29
15	2017	11	10～ 11	小学校改修工事において、現場確認のため、体育館内に入る際、スロープ状に設置してあるアルミ製の足場板を踏んだところ、足場板が跳ね上がり、左手に強打し、負傷したものである。	38	2	417	1～ 9
16	2017	11	15～ 16	鉄道軌道脇で、現地確認作業を行っている時、列車接近によりトラフ上で退避を行った。列車通過後、トラフ上から軌道側へ移動する時に、足を滑らせ、左膝辺りを負傷した。	62	2	419	50 ～ 99
17	2017	11	11～ 12	個人宅電気工事において、使用する換気扇のダクトを作業場で切っていたところ、誤って手を滑らせ右手親指を負傷した。	73	8	159	1～ 9
18	2017	11	10～ 11	病院において平屋建ての屋根上の清掃作業中、梯子を使用して降りるところ転落した。頭部を地面に強打した。	63	2	711	1～ 9
19	2017	11	13～ 14	現場敷地内の電柱を地面にユニック車で降ろす際に、吊っていた電柱が煽られ被害者の腕がユニック車のアウトリガーと電柱の間に挟まり左腕を骨折、裂傷した。	52	7	212	30 ～ 49

20	2017	11	14～ 15	3tダンプ上での作業完了後、ダンプの荷台から降りようとした際、着地が不安定になり左足首を負傷した。	48	3	221	10 ～ 29
21	2017	10	11～ 12	電柱建て替え現場で、宅内引き込み線を外して新柱に移設する作業の際、引き込み線のあるところにハシゴを掛け、その引き込み線を外してハシゴから下りるときに、そのハシゴが揺れて倒れそうになったので1.5mから2mぐらいのところから飛び降りた。そのとき左足から着地し踵を骨折した。	49	1	371	50 ～ 99
22	2017	10	20～ 21	山の中で現場作業終了後、社有車にて現場事務所へ帰る途中で、忘れ物（レーザー距離計）があることに気づき、現場に引き返した。忘れ物を持ち、暗い林道を小走りで社有車へ戻る途中、草もしくは転石につま+C1:C38ずき転倒し、右足くるぶし部を骨折した。	27	2	719	10 ～ 29
23	2017	10	15～ 16	現場作業員からの要請により取り付け機器の代替品を配送後、事務所へ帰社する途中の緩やかな左カーブにおいて、ブレーキを踏んだが間に合わず相手車両と衝突した。	21	17	231	300 ～ 499
24	2017	10	10～ 11	被災者は土間配筋内の配管状況確認で配筋上を移動中、足を踏み外して前方に倒れ込みながら、左手を突いたところ手首を負傷した。被災者は通常、会社で工事事務を担当しているが、当日は応援で配管状況の点検のため現場に入った。点検で取り付け変更等が必要な部分を発見した場合は、現場代理人に連絡し外注業者が施工するので、当日の業務には作業はない。	28	2	416	100 ～ 299
25	2017	10	10～ 11	被災者は機器点検修繕工事に従事していた。遮断機操作拍のゴムパッキン取り替え工事に着手。ゴムパッキンを剥がし、残ったボンドをアルコールで清掃除去するための容器の内蓋をカッターナイフで十字に切り目を入れようとした際カッターナイフが根元から折れ、左手親指付根を負傷した。	21	8	364	300 ～ 499
				自社内の倉庫にある鉄板（1,500×3,000・1枚当たり約880kg）				

26	2017	10	17～ 18	の保管場所を変更するため、4tユニック車で鉄板を吊り上げ、移動させる作業を行っていた。その荷降ろし場所で、鉄板位置の微調整を行うために、鉄板と地面の間に手をかけたところ、突然鉄板が傾き、指を挟まれ被災した。	38	7	229	10 ～ 29
27	2017	10	10～ 11	被災者は1人で交通信号機保守管理業務に従事していた。点検すべき信号機のある現場に車で向かっていたところ、交差点にて、不注意から停車中のコンテナトラックに後ろから衝突して骨折した。	22	17	231	30 ～ 49
28	2017	10	10～ 11	弊社2番倉庫内において材料の荷受を行っている際に、材料を置くためにダンボールを敷く事になり、不要ダンボールを持ち出すため、搬入済の荷物（ダンボール入り）の奥へ手をのばして取ろうとして、左側の肋骨がダンボールに押し当たったため、負傷した。	43	3	611	100 ～ 299
29	2017	10	14～ 15	電気工事で、屋外の電気工事引込ポール（鉄製高さ5m地下1m）の高さ1.8mに、はしごをかけて作業していた。ポールが古く根元が腐食しておりポールが根元から折れて倒れはじめたため、はしご6段目から飛び降りたところコンクリート地面に右足かかとを打った。安全靴は着用していた。	28	1	418	10 ～ 29
30	2017	10	18～ 19	社命により、会社の車庫に停めた車の荷台から台車（巾80cm横60cm高さ10cm）を降ろす際誤って荷台と台車の間に左手小指を挟み負傷した。	41	7	362	—
31	2017	10	15～ 16	屋上で、1人でテプラ貼り作業中、目にゴミが入った際、バランスを崩して1階まで転落し右腕を開放骨折した。	24	1	415	50 ～ 99
32	2017	10	11～ 12	建設が元請のソーラーパネル設置現場で、別の人が運転するフォークリフトの後部に乗って移動中、急発進した際に転落して腰の骨を折った。	33	1	222	10 ～ 29
				小学校の現場から会社に戻る途中の緩やかな左カーブの上り坂				

33	2017	9	16～ 17	を走行中、センターラインをはみだし、対向車の10tダンプカーと正面衝突した、被災労働者が軽ワゴン車を運転しており、救急クリニックに運ばれたが、約3時間後に死亡した。	21	17	231	1～ 9
34	2017	9	10～ 11	小学校校舎改修電気設備工事の工事現場で、ケーブルグリップ（アミソ）とロープ及びケーブルウィンチを使用して、電気ハンドホール内の不要ケーブルの撤去作業時に、ケーブルウィンチの引っ張りによりロープが張り詰めて切れそうな状況となり、中止を指示しようとした矢先にケーブルグリップ（アミソ）が撤去作業中のケーブルより抜けて、伸びきったロープが縮んで、ケーブルグリップが被害者の左すねに直撃した。	37	6	379	1～ 9
35	2017	9	14～ 15	自社事務所前の三段階段で足をすべらせて転倒した際、左足を強打してじん帯が切れてしまった。（当時雨が降っており足元がすべりやすい状態であった。）	24	1	413	30 ～ 49
36	2017	9	9～ 10	原っぱ（私有地）内の自営柱K-18-4～K-18-6間の、既設ケーブル撤去ケプラーロープ張りの作業中、自営柱K-18-6の柱上でケプラーロープまでの布設が完了。ケプラーロープを自営柱へ縛りつけようとした時、当該自営柱が、地際付近で折れて転倒した、作業員は胴網・安全帯を使用していたため自営柱とともに転倒し、右脚が自営柱の下敷きになり骨折した。	57	5	418	10 ～ 29
37	2017	9	14～ 15	先方柱（鋼管）の太陽光発電新設電気設備工事現場に於いて引込口配管配線工事中、先方柱にパイプケーブルを設置する為先方柱にバンを横付けしバンの天井部分のキャリアの上で設置作業中身体のバランスが崩れ約2mの高さから落下し負傷したものである。	42	1	231	1～ 9
38	2017	9	11～ 12	社内にてマンホール開閉点検補修作業中、ローラー内部の残圧を抜きマンホールの蓋をチェンブロックにて落下防止し、ボルトを外したところ、ローラーと蓋とパッキンが強固に引っ付いていた為、ボールやマイナスインドライバーで取り外しを試みた	62	11	519	30 ～

				瞬間、蓋が外れ、大量の温水が飛び出し、れ、左手甲に火傷を負い、同じ所にマンホールの蓋があたり皮がはがれた。				49
39	2017	9	21～ 22	本社内倉庫にて、片づけ・整理作業中、倉庫内に置いてあるケーブルドラム（約300kg）を移動させるため、手で方向転換させようと足に力を入れた際、右ふくらはぎに殴られたような衝撃があった。	45	19	921	10 ～ 29
40	2017	9	13～ 14	脚立を使用し、車庫天井面の照明器具の取り替えを行っていたが、脚立の設置が不十分だった為脚立が倒れ、当事者も転落し、右手をついた時に今回の傷病となった。	64	1	371	1～ 9
41	2017	9	13～ 14	送電線の電線張替作業において、当人が積載型トランククレーンの荷台に積んである資材と機材を下すため、玉掛けしようとして荷台に上がる際に足を滑らせ体勢を崩して転落し受傷した。	54	1	221	10 ～ 29
42	2017	9	16～ 17	新築のお宅で外から中への同軸ケーブルがない物件の為、空配管へ通線をしようとし、ケーブルを引っ張ったところ、断線し、その反動ではしごから落下し、踵との骨を骨折した。	31	1	371	1～ 9
43	2017	8	19～ 20	2階の事務所から1階へ下りる階段（手摺り、滑り止め装備）の左側から1つ目の踊り場へ下り、2つ目の踊り場から1階への階段1段目を下りた付近で、ふとした拍子に体勢を崩し、尻もちをついた。	54	2	413	100 ～ 299
44	2017	8	11～ 12	高所作業車（バケット車）に乗り、架空地線と接地線を油圧圧縮器により接続する作業中、圧縮器で接続材（分岐スリーブ）を圧縮した際に、圧縮器のダイスが接続材に噛み込んだため、被災者は圧縮器操作スイッチをバケット内の操作盤上に置き、右手でダイスを外そうとした。そのとき何らかの理由で圧縮器が作動し、右手人差し指がダイスとシリンダに挟まれて負傷した。なお、手でダストを外そうとした際には、ブースターは「入」であった。	20	7	154	50 ～ 99

45	2017	8	12～ 13	被災者は、現場事務所内にある資材置場で、廃材ケーブルの引取撤去作業に立ち会っていた。引取業者に対して安全指導を行い、作業終了後の打ち合わせを行っていたとき、突然倒れた。	57	90	921	10 ～ 29
46	2017	8	15～ 16	小学校の庭園内を架空する電灯線が植栽と接近接触しているのを、伐採して離隔する作業中、庭園内地上にて、伐採した枝をゴミ袋に入れる際、細かく切断するため電動丸ノコを使用した。その際、丸ノコの使用を誤り、右手首を切傷した。	38	8	131	1～ 9
47	2017	8	9～ 10	被災者は、作業長・作業副長とTBM-RKY後、電柱の抜柱作業に着手した。電柱に玉掛けワイヤーを取り付け、建柱車にて吊り上げ、同時に抜柱機にて電柱を地際から60cm程度浮かせたが、電柱が抜けなかったため、玉掛けワイヤー位置の変更と抜柱機の取付替えを行った。オペレーターは電柱を軽く揺さぶり、沈み込みの無いことを確認し、建柱車のウインチを緩めた。その後、被災者は玉掛けワイヤーを電柱の正規の吊り位置に変更するため、新設柱側から昇柱し、玉掛けワイヤーを付け直し、建柱車フックに引っ掛けて位置合わせをしているときに、電柱が40cm程度ずれ落ち、電柱と玉掛けワイヤーの間に指を挟まれ負傷した。	41	7	372	30 ～ 49
48	2017	8	3～4	取替作業等に従事し、作業が終了したので設置パンタグラフ支持枠から作業床に降りる際に体勢を崩し、接地パンタグラフに手をかけた瞬間、接地パンタグラフが自動降下し、支持枠にかけていた右足指先が接地パンタグラフ支持枠と架台との間に挟まれ、受傷した。	43	7	149	300 ～ 499
49	2017	8	13～ 14	工場内で塗装作業中に養生鉄板で保護していたのを忘れ、後にしゃがもうとした時に尿道付近を強くぶつけてしまった。	22	3	521	10 ～ 29
				通信線を新たに設置する工事の準備で通信線を引っ張るための金車を取り付け延線ロープを金車に通していた。ロープを車両				

50	2017	8	14~ 15	で張り上げている途中で金車を固定していたバンドが破断し、同柱で作業をしていた被災者の顔面左側こめかみ付近に直撃した。破断したバンドはケーブルをまとめるものであり金車を固定するものでなかった。通常はスリングやワイヤーを使用すべきところを扱いやすいことから今回破断したバンドを使用してしまった。	48	4	529	10 ~ 29
51	2017	8	9~ 10	主催によるレールボンド溶着作業技能講習会において、レール研磨中にレール研磨盤砥石が突然割れその破片が側にいた受講生の本人の右額部に当たり負傷した。頭部外傷右前額部割創と診断され、全治10日、処置後帰宅した。	33	4	153	30 ~ 49
52	2017	7	16~17	通信線現場調査終了後、高所作業車から降車時、バケット部から（2.0m付近）足を滑らせ、転落し、負傷した。当時、雨が降っていて滑りやすい状況だった。	35	1	146	30 ~ 49
53	2017	7	15~16	事業所より、同僚が運転する乗用車にて帰宅中、被災者の体が揺れだし、手元も震えだしたため、救急車を手配した。	39	11	715	1~ 9
54	2017	7	10~11	照明換気設備等改修工事において、脚立に上り照明器具を取り外そうとしていた際に、誤って脚立より転落し、左腕を負傷したものである。	50	1	371	10 ~ 29
55	2017	7	9~10	工事の現場において、低圧停電準備作業のため、高所作業車で建替柱の既設低圧CVケーブルの縛り紐の切断作業を行っていた。縛り紐の結び目を左で引っ張り、ナイフを押しながら切断していたが切れにくかったためナイフの刃先が手前側に向けて引きながら切っていたところ、縛り紐が切れ、弾みで刃先が左眼に当たり受傷した。	33	8	364	1~ 9
56	2017	7	2~3	19.8KP付近走行側を規制マニュアル通りに規制作業していたところに中型貨物自動車（4t）（道路一般利用者）が、規制作業にかなりのスピードで追突し規制車（4t車）が大破し、はずみで規制車の斜め前方で監視していた被災労働者に突っ込み、規	53	17	221	1~ 9

				制車（4t車）と高速道路側壁に挟まれ、被災労働者の下腹部を直撃した。				
57	2017	7	10~11	バケット車に搭乗し、電柱上に取り付けてあるPHSアンテナを撤去するため、両手でPHSアンテナを持ち上げようと上部へ押し上げた際、腰部に痛みが走った。	40	19	921	50 ～ 99
58	2017	7	16~17	携帯基地局内で無線機設備設置作業を行っている時被災者が軽いめまいと吐き気を訴えたため、日陰への移動を指示したが、休憩開始直後に嘔吐した。熱中症と診断された。なお、当日は高温の下での作業となるため現場作業員に水分、塩分補給については適時行うように指示していた。また被災者は、当日は主に作業の補助と見学を行っていた。	24	11	715	10 ～ 29
59	2017	7	16~17	会社の駐車場で、車の扉を開けたら、照明器具（20kg、50×15×15cm）が落ちてきて右足の甲にあたり、打撲した。	29	4	611	1～ 9
60	2017	7	14~15	仮設養生鉄板をフォークリフト、永磁式リフティングネットを使用し敷設作業中道路の縁石（15mm高）を乗り越えた時、鉄板が揺れて高さ60cmから落下し、鉄板の回転・揺れを抑えていた作業員の足が鉄板下方に位置していた姿勢であったため右足甲部に接触した。	64	4	521	1～ 9
61	2017	7	14~15	構内において、碍子の取り外し作業を高所作業車にて開始した。被災者が運転操作し高所作業車のバケットを碍子取り外し位置につけ、同乗作業員が鉄構ビームに金車を取り付けようとしたとき、何らかの原因でバケットが上昇し、被災者がバケットと鉄構ビームとの間に挟まれた。	26	7	146	10 ～ 29
62	2017	7	15~16	木柱の昇柱順練中高さ3.8mからさらに昇柱しようとした時にバランスを崩し滑り落ちた。その際に地上30cm付近に築線してあった電線に首を打ちつけた。直後本人は痛みがなかったが後日になり痛みが出てきた。工事の協力会社で、研修施設で研修	22	1	419	10 ～ 29

				中に発生した事故。				
63	2017	7	14~15	駐車場棟1階屋外電気室補修工事現場で低温卸売場の天井裏スペースで電気配線作業の指示確認中誤って天井点検口を踏み抜き1階フロアに転落してしまった。	41	1	418	10 ~ 29
64	2017	7	15~16	太陽光発電設置現場に於いて、電気配管を移動し埋設する作業中、持っていたつるはしを振りかぶったとき胸に痛みが走った。	23	19	921	10 ~ 29
65	2017	7	2~3	高圧ケーブル張替作業中に滑材が不足したため、作業を中断し滑材が届く間、歩道で待機中に走行してきた乗用車が突っ込んで来て、はねられた。	65	17	231	10 ~ 29
66	2017	7	2~3	高圧ケーブル張替作業中に滑材が不足したため、作業を中断し滑材が届く間、車両荷台上の端で待機中に走行してきた乗用車が突っ込んで来たので、荷台中央に逃れる際に荷台の縁に左足の甲をぶつけた。	38	17	231	10 ~ 29
67	2017	7	12~13	自社倉庫にて、片付け作業をしていて、雨上がりで敷石が濡れていたため、滑って転倒して、左足首付近の靭帯創傷した。	31	2	417	1~ 9
68	2017	7	10~11	電線を固定している紐をナイフで切る時、勢いあまり目に当たり受傷した。	33	8	364	10 ~ 29
69	2017	6	11~12	現場にて作業用足場板敷設作業中、補助ロープを外して移動していた。固縛していない足場板に乗った際、足場板が落下し、足場板と一緒に2.6m下に転落し、着地時に左踵を強打し、怪我をしてしまった。	50	1	416	30 ~ 49
70	2017	6	15~16	現場から現場へ移動中の事故である。二車線の道路を走行中、左追い越し車線から右車線へ車線変更を行う際、前方の車に気づかずにハンドルをきり、車が横転する事故となった。	65	17	231	30 ~ 49
			16~	作業終了後、道具を片付けていたところ、4~5mの山の法面上				10

71	2017	6	17	から落石があり、左手に直撃し、左人差指を骨折した。	44	4	711	～ 29
72	2017	6	10～ 11	本人は、小用のため近隣のパチンコ店で用を足した後、小休止のため道路向かいのベンチに行くため横断歩道へ向かうべく、区画ロープで囲われていた空気を横断して、ロープに気付かず左足を引っ掛けて転倒し、歩道で左肩を強打した。診察の結果、左上腕頸部骨折が判明した。	67	2	379	～ 29
73	2017	6	11～ 12	鉄クズを持ち込んだ時、車の後部座席から数個の鉄クズが入った荷物を2人で出しながら、応援の人へ渡していた。最後の荷物を持って車の外へ出ようとしたところ、たまたまFB（平板鉄）とLアングル（L字型の鉄板）の重なっている上を踏んでしまい、右足をグニャッと捻ってしまい、その場にへたり込んでしまった。	60	19	521	30 ～ 49
74	2017	6	15～ 16	雑木林にて伐採作業をしている際、梯子に登って周囲の状況を確認する時、降雨により濡れた長靴で足が滑ってバランスを崩し、地面に転落した。	48	1	371	10 ～ 29
75	2017	6	16～ 17	電気工事を終え、翌日使う予定の電気工事の材料を受け取り、会社に帰る途中、右折しようとして直進の車と接触後、停車中の車にぶつかり、肋骨、頭部等を負傷した。	49	17	231	1～ 9
76	2017	6	11～ 12	自社のトラックの荷台上にて、チェーンソーの始動点検を行っていた時に、誤って左手小指がチェーンソーの刃に触れて怪我をした。	47	8	136	1～ 9
77	2017	6	14～ 15	部落の外灯を直していた時に、作業が終わり、胴綱を外し降りようとした時、バランスを崩してしまい、脚立が倒れて植え込みの上に落ちて左足を切り、さらに尻もちをつき圧迫骨折をする負傷をした。	63	1	371	1～ 9
78	2017	6	14～	送電線近接の樹木点検作業中、足を滑らせ滑落した作業員と衝	43	1	711	10 ～

			15	突し、約30m滑落し、顔面と左足踝を負傷した。					29
79	2017	5	11～ 12	テレビ共聴システムの大規模改修工事において、既設ケーブルの撤去作業中、既設木柱に昇柱してケーブルの切断時に木柱が倒壊し、木柱と共に田んぼに倒れ、胸を強打した。	39	1	351		30 ～ 49
80	2017	5	14～ 15	現場にて消防用設備点検業務誘導灯本体の不良確認の為、本体取外しの際にバランスを崩し脚立より転倒した。	38	1	371		10 ～ 29
81	2017	5	8～9	工場内で鉄板（60×240×2400程度）を台車に載せて運搬する作業を行っている時、鉄板を多目に積んでいた（200kg程度）事と台車の中心に置いていなかったため、台車を旋回しようとした際に重心が外側にかかり台車ごと倒れそうになった。2人の作業員のうち1人はすぐさま手を離したが、被災者は防ごうとして手を伸ばした為、鉄板と地面に左手を挟まれた。	28	4	362		1～ 9
82	2017	5	10～ 11	通信ケーブル敷設工事を実施するため、片側交互通行規制を実施中、第一当事者（被災者）が不足している材料を取りに行くため、西側から道路を横断し東側の民地に駐車していたユニット車に向かう際、左側より歩道を進行してきた第二当事者（相手方）であるタクシーに接触し転倒した。	47	17	231		100 ～ 299
83	2017	5	9～ 10	発電所復旧工事の現場で地下2階から地下3階に足場用単管パイプ（2.5m）を手渡しで下ろす作業をしていた。被災者は地下3階で足場用単管パイプを受け取ったが皮手袋から滑り、自身の右足甲に落下させ受傷した。	54	4	521		30 ～ 49
84	2017	5	14～ 15	ホーム階の断路器室でケーブル管路コア抜きに伴う鉄筋探査作業を行っていた。被災者は座った姿勢で作業を監視しており作業が終了し、その場で立ち上がろうとした際に意識を失い、体が直立したままの状態から転倒し、右顔面を強打した。当時、保護帽を着用し、顎紐も締めていた。	44	99	999		10 ～ 29

85	2017	5	13～ 14	電気設備の配線路点検中に狭い場所を通り抜けようとした際に胸が押えつけられそうになり、通り抜けたところ胸に違和感と痛みを感じた。	33	19	418	10 ～ 29
86	2017	5	18～ 19	地下2階の電気室にて見積書作成のための電気配線調査中に、支店の派遣社員が倒れた。従来特段体調不良の訴えもなく、業務と発症の因果関係は不明である。	50	99	999	10 ～ 29
87	2017	5	10～ 11	被災者は、事業所の倉庫1階で、この後向かう現場で使用する資材の整理をしていた。同様に2階で資材の整理をしていた作業員が、誤って材料（15×30×20cm）を2階から落としてしまい、それが1階の被災者の背中に当たり肩甲骨を負傷したものである。	31	4	611	10 ～ 29
88	2017	5	9～ 10	動力計器取替工事中、既設計器取り外し後、新設計器取付作業に着手し、計器一次側より白相、赤相の順に差し込み、最後に黒相を差し込もうとしたが、黒相の電線が斜めに曲がっていたため左手で計器を少し前方に傾け、右手で黒相電線を持ったまま計器電線挿入口を覗き込んだところ、計器の二次側ビスに電線が接触したと思われ、アークが発生し短絡した。そのアークにより顔面に火傷を負った。	48	11	352	10 ～ 29
89	2017	5	14～ 15	被災者は傾斜地で自走式高所作業車（キャタピラー）を使用してラッシング作業を終え、シメラーを取り外そうとして、バケットの位置を変えるため右側へ旋回した時、車体が浮き上がり後方に倒れた。	26	1	146	10 ～ 29
90	2017	5	13～ 14	本社敷地内に設置してあるコンテナ出入り口にて現場工具等の整理及び準備中に扉が閉まりかけたため、慌てて右手で扉を押えつけたところ右手小指をぶつけた。	30	3	418	10 ～ 29
91	2017	4	10～	作業員3名で建売住宅（平屋）のテレビアンテナを立てる作業中、テレビアンテナ、アンテナマスト、屋根馬の設定のため、脚立を伸ばして屋根に立て掛けて登っている時、右手にテレビ	62	1	371	1～

			11	アンテナを握っているが、脚立を登り終えた時バランスをくずして地上に落下した（ヘルメット、安全靴着用）。				9
92	2017	4	12～ 13	足場上で個人住宅のテレビ共聴引き込み工事を済ませ、地上に降りようと建枠を伝って移動中足を踏み外し、下部の交差している足場上に落ち膝を損傷した。	58	1	411	10 ～ 29
93	2017	4	11～ 12	作業終了後、時間が早いので支店で材料整理をしようと移動中に、カメラの無いことに気付いた。首から下げていたカメラを柱上作業中邪魔になり、電柱上にぶら下げたことを思い出し、取りに戻った。2m程度昇柱したところで立木の枝が邪魔になり、左手で振り払ったところ、支持していた右手が滑り、仰向けに頭から落ちた。	55	1	351	30 ～ 49
94	2017	4	10～ 11	パンザマスト（166kg）をカニクレーンで吊り上げ移動中、ぬかるみでバランスを崩しカニクレーンが転倒した。吊り荷を把持していた被災者がクレーンブームとパンザマスト側面に挟まれ受傷した。	20	7	212	10 ～ 29
95	2017	4	10～ 11	神社境内、高所作業車での作業が出来ない場所にて低圧引き込み線張替工事中に、神社の引き込み受点側に梯子を立て掛けていた被災者が落下した。被災者はヘルメットを着用し、安全帯を梯子に取り付けていたが、電線を切断した際にそのまま引っ張られ梯子ごと転倒し、近くの石像に顔面を強打した。	48	1	371	10 ～ 29
96	2017	4	16～ 17	工事現場で片付け作業中、トラック荷台にのっていた発電機（約40kg）を持ち上げ移動させようとした時に体勢を崩し、体をひねって腰部と背中を負傷した。	46	19	611	1～ 9
97	2017	4	10～ 11	当日朝から高エネルギー加速器研究機構作業現場において作業を開始し、午前中の休憩時に資材の在庫確認をするため、現場事務所の倉庫に移動し、在庫確認を終え倉庫から退出する際に足元を良く確認せず、段差のある出入口の引き戸に左足首を	48	2	418	1～ 9

				引っ掛け転倒した。				
98	2017	3	18~19	会社の倉庫内で清掃をしている時、二段積みのタイヤを動かそうと持ち上げた時に痛みがはしった。	30	19	529	50 ~ 99
99	2017	3	16~17	鉄筋加工場において、電線取替作業中電線被覆を剥いている時、手がすべりカッターで手を切った。	29	8	364	1~ 9
100	2017	3	13~14	高所作業車バケットへ搭乗し、電線張替工事作業中に、高所作業車バケットから墜落し、山の法面に尻から着地し、道路にズリ落ちた。	25	1	229	100 ~ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。